

標準施工工程

●平滑仕上げ

工 程	材 料 名	調合割合	所 要 量	塗回数	間隔時間 *1		施工用具
					工程内	工程間	
1 下地調整	均一で吸込みの差等がないようにしてから施工して下さい。 下地に付着しているゴミ、ホコリ、油脂類、異物は取り除いて下さい。						
2 下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.2kg/m ² 75~150m ² /缶	1	—	2時間 以上	刷毛、エアレス、 中毛ローラー
3 上塗り	ダイヤセラナノン 清 水	16kg 0.8~1.6%	0.2~0.3 kg/m ² 54~80m ² /缶	2	2時間 以上	—	刷毛、エアレス、 中毛ローラー

*1 間隔時間は温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなり差異がありますので注意して下さい。

●改修

工 程	材 料 名	調合割合	所 要 量	塗回数	間隔時間 *1		施工用具
					工程内	工程間	
1 下地調整	劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いてケレン除去して下さい。 既存塗膜のチョーキング、ほこり、汚れ等を高圧水洗浄等で除去・清掃して下さい。						
2 下塗り	ダイヤアクリスエポ 清 水	16kg 0.8~1.6%	0.3~0.5kg/m ² / 32~53m ² /缶	1	—	16時間 以上	中毛ローラー
	ダイヤアクリスエポ 清 水	16kg 0.4~0.8%	0.8~1.0kg/m ² 16~20m ² /缶	1	—	16時間 以上	多孔質ローラー
3 上塗り	ダイヤセラナノン 清 水	16kg 0.8~1.6%	0.30~0.35kg/m ² 46~53m ² /缶	2	2時間 以上	—	刷毛、エアレス、 中毛ローラー

*1 間隔時間は温度23℃、湿度50%の場合です。冬期、夏期では、温度、湿度によって間隔時間にかなり差異がありますので注意して下さい。

※ 所要量は下地の種類により変わることがあります。

適用下地

- 新 築：コンクリート、モルタル、石綿スレート、石膏ボード等の上塗り
- 塗り替え：吹付けタイル等の上塗り

包装単位

ダイヤワイドシーラー……………15kg缶
 ダイヤアクリスエポ……………16kg缶
 ダイヤセラナノン……………16kg缶

施工・管理上の注意

【塗面の調整（新設）】
 ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
 ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（φH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
 ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
 ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 1) 壁板、木コン、破損箇所、不陸などは、セメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500等の下地調整材使用し、補修して平滑にしてください。
 2) 表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。
 ⑤ALCパネルの場合はダイヤカチオンプライマーを塗布して下さい。
 【塗面の調整（新設・改修共通）】
 ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
 ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、フリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。
 【塗面の調整（改修）】
 ①各現場の改修工事仕様にに基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行って下さい。
 ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
 ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
 【材料の保管・管理】
 ①開缶した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
 ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
 【施工】
 ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
 ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
 ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行わない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残り/りとなります。
 ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
 ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
 ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
 ⑦施工にあたっては、同一方法で、入隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは、色違い/ムラ等の原因になります。
 ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
 ⑨本施工に入る前に試験塗りを行い、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
 ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上がらないことがあります。特に濃色や下地の吸い込みがない場合等は少なめに希釈して下さい。
 ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
 ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。

⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
 ⑭塗装下地の産によって、塗布量が変わる場合があります。
 ⑮フッ素や無機系などの難接着塗料が塗られている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄の営業所へご相談下さい。
 ⑯使用時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
 ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
 ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くすると色が取れる場合があります。
 ⑲下地の吸込みムラにより色彩のムラが発生する場合があります。
 ⑳シーラーと上塗りを混合するとゲル化する恐れがありますので、容器、刷毛、ローラーなどの共用は避けて下さい。
 ㉑上塗材を施工する場合は、下塗りの乾燥状態を確認して下さい。
 ㉒既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には高圧水洗後ダイヤシーラーエポまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。
 ㉓施工後、塗膜が乾燥するまでに、降雨などにより水分の影響を受ける状態が継続された場合、低汚染機能が発現しないことがあります。乾燥までに降雨や積雪、結露が予想される場合は施工を避けて下さい。
 ㉔予想外の降雨などが発生した場合は、シート養生などを行い、塗表面が濡れないよう対策を講じて下さい。
 ㉕施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。雨掛りでない部位や斜壁、水切りが不十分な面合や窓まわり及びその下側面などは、低汚染機能が発現しないことがあります。
 ㉖シーリング材などに含まれる可塑剤、煤煙や油類、サビなどが原因の汚染物質に対しては、低汚染機能が十分に発揮されません。
 ㉗上塗は塗布量を厳守し均一に施工して下さい。塗布量が少ない場合は低汚染機能が十分に発揮されません。
 ㉘塗布面の吸い込みが大きい場合は、下塗などにより吸い込みを少なくし、上塗が塗布面に吸い込まないようして下さい。表面に上塗材が十分に確保されていないと耐蝕性、低汚染機能が発揮されません。
 【安全衛生上の注意】
 ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
 ②取扱い時は、手洗い及び目が十分に洗って下さい。
 ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
 ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
 ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
 ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 ⑦顔や飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 ⑧中身を使い切った後から廃棄して下さい。
 ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
 ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
 【その他】
 ①その他、詳しくは最寄の各営業所へお問い合わせ下さい。
 ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意事項については仕様書等をご確認下さい。
 ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意事項については安全データシート(SDS)をご確認下さい。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせは
 ホームページのお問い合わせフォームよりお願い申し上げます。
<https://jpn.sika.com/ja/system/contact-us.html#construction>



(25.7月現在) 25.07.200 SJ

F☆☆☆☆

ダイヤセラナノン

超低汚染水系 1液セラミックハイブリッドアクリルシリコン樹脂塗料

耐候形1種

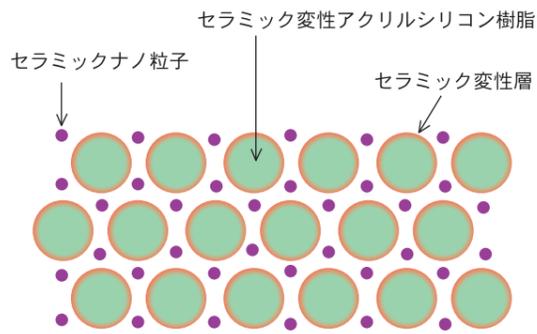
セラミックナノ粒子が
 新しい塗料の世界を創ります。

ナノテクノロジーが 塗料を変えた!

超低汚染水系1液セラミックハイブリッドアクリルシリコン樹脂塗料

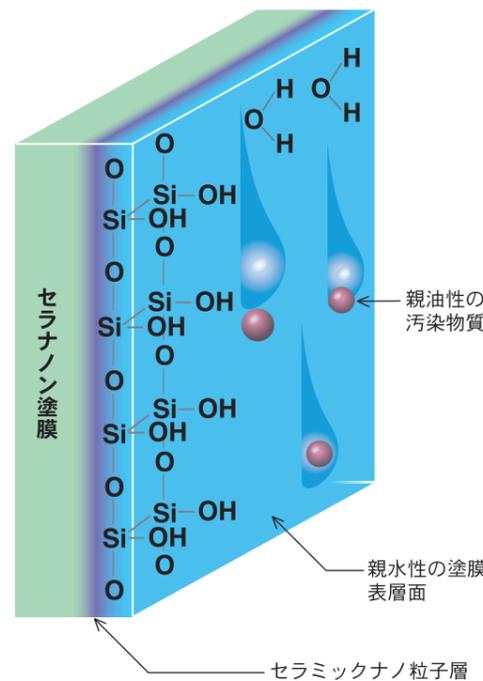
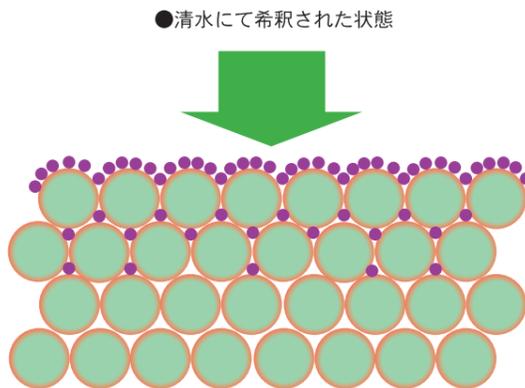
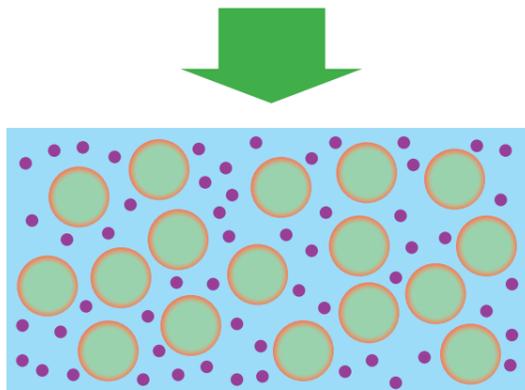
ダイヤセラナノ

超低汚染のメカニズム!



ダイヤセラナノは、セラミックナノ粒子とセラミックで変性したアクリルシリコン樹脂をハイブリッド化し、完全水系1液化を実現しました。

さらに、セラミックナノ粒子により無機の特長である塗膜硬度と親水性を付与され、超低汚染の塗膜を形成、建物の美観を長く保持します。



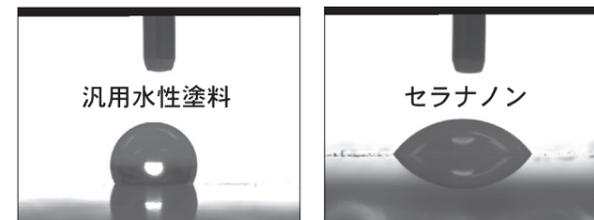
100万分の1ミリの世界。

人にやさしい塗料を目指して来た結果、

私達は前人未到の世界へ辿り着きました。

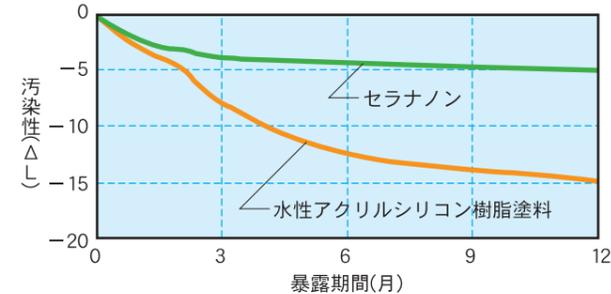
1,000,000
ナノメートルのテクノロジーが生んだダイヤセラナノ。
セラミックナノ粒子が新しい塗料の世界を創ります。

超低汚染性



ダイヤセラナノンの塗膜は親水性ですので、雨水が汚れの元となる親油性物質と塗膜の間に入り込み、包んだ状態で浮かせて流します。

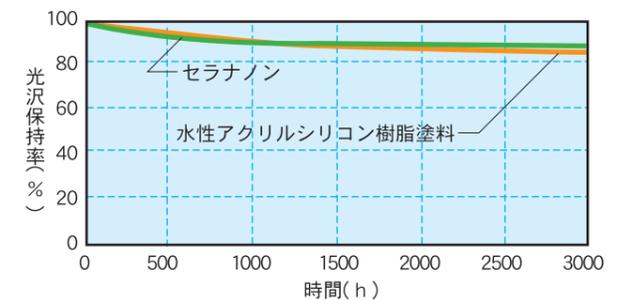
●屋外暴露試験(大田区北荻谷)



高耐候性

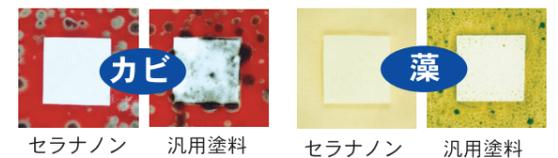
ダイヤセラナノンの強靱な塗膜が、厳しい環境下でも優れた光沢保持率を発揮します。

●促進耐候性試験(キセノン W.O.M.)



防カビ・防藻性

ダイヤセラナノンはカビ・藻を寄せ付けませんので、長期間美観を保ちます。



微弾性

ダイヤセラナノンの塗膜は、微弾性を有していますので改修に最適です。